

JJ-20.30
TDM - TDM間インタフェース - 概説
〔 Interface between TDM-TDM - Outline 〕

第2版

1990年4月25日制定

社団法人
情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、(社)情報通信技術委員会が著作権を保有しています。
内容の一部又は全部を(社)情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、
転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

<参考>

1．国際勧告等との関連

本標準に関連する国際標準はない。

2．改版の履歴

版 数	発 行 日	改 版 内 容
第 1 版	昭和 6 3 年 5 月 3 1 日	制 定
第 2 版	平成 2 年 4 月 2 5 日	J J - 2 0 . 3 2 追加

3．工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページでご覧になれます。

4．その他

目 次

1. 概 要	1
2. 適用対象	1
3. 関連標準の構成	1

1. 概要

TDM相互間をデジタル専用線を介して接続する時のTDM-TDM間インタフェースに適用する標準の概要を述べる。

TDM-TDM間インタフェースは、デジタル専用線のユーザ・網インタフェースで規定されるユーザに開放されたチャンネル（ユーザチャンネル）へユーザ情報信号を多重化する論理条件によって規定される。

詳細については、標準JJ-20.31（オクテット多重形式）、JJ-20.32（ビット多重形式）に記述される。

本標準のインタフェースは以下の機能を持つ。

- (1) 種々の速度を有するユーザ情報信号を多重化する。
- (2) 各フレーム毎の警報を転送する。

2. 適用対象

本標準のインタフェースは、図2-1/JJ-20.30に示す接続形態に適用される。

3. 関連標準の構成

関連標準は、次により構成される。

- (1) JJ-20.30 : 概説
- (2) JJ-20.31 : オクテット多重形式（注1）
- (3) JJ-20.32 : ビット多重形式（注2）

（注1）本標準では、オクテット多重形式とは以下の条件を満足する多重化形式を意味する。

- (1) 6.4 kbit/s 未満の信号は、6.4 kbit/s へ多重化した後、他の信号と多重化する。
- (2) 上記の多重化された6.4 kbit/s の信号および6.4 kbit/s の信号は、異なるタイムスロットにまたがって収容しない。

（注2）本標準では、ビット多重形式とは以下の条件を満足する多重化形式を意味する。

- (1) マルチフレーム同期が不可欠な信号は、8 kbit/s の整数倍に多重した後、他の信号と多重化する。
- (2) 多重化される信号は、タイムスロットの境界を意識することなく収容できる。

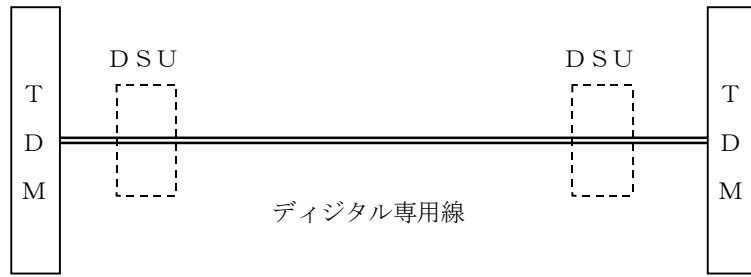


図 2-1 / J J - 2 0 . 3 0 接続形態例

第2版執筆作成協力者（平成2年2月1日現在）

(JJ-20. 30 の改定)

第三部門委員会 第一専門委員会

(敬称略)

委員長	柏村 卓男	日本電信電話(株)			
副委員長	和田 洋夫	富士通(株)			
	久保田恭一	国際電信電話(株)	諸星 達也	(株)アルファシステムズ	
	吉田慎一郎	日本電信電話(株)	池田 直明	企業通信システムエンジニアリング(株)	
	武田 恒男	エヌ・ティ・ティ・データ通信(株)	渡辺 恭行	東京電力(株)	
	山本 隆司	日本情報通信(株)	竹原 啓五	日本通信協力(株)	
	松本 功	アンリツ(株)			
	森内宏一郎	沖電気工業(株)			
	日比野 悟	三洋電機(株)	久島 和則	沖電気工業(株)	
	西原 勉	住友電気工業(株)	前野 順一	(株)東芝	
	関井 清	(株)東芝	徳永 正人	日本電信電話(株)	
	浜崎 純一	日本アイ・ビー・エム(株)	川村 雅生	日本情報通信(株)	
	大島 敏	日本A T & T(株)	大埜 廣治	住友電気工業(株)	
	松下 稔	日本電気(株)	戸所 孝昭	日本アイ・ビー・エム(株)	
	大井 真実	日本無線(株)	筒井 孝司	日本電気(株)	
	小野 勲	日本ユニシス(株)	辻井 国雄	日本無線(株)	
	平岩 賢志	(株)日立製作所	山浦 史雄	日本ユニシス(株)	
	小松 雅喜	(株)日立テレコムテクノロジー	入部 真一	(株)日立製作所	
	山本 雅治	富士通(株)	進来 俊	富士通(株)	
	三塚 正博	松下通信工業(株)	中野 栄	三菱電機(株)	
	岩橋 努	三菱電機(株)	岡田 一男	明星電気(株)	
	多田 正信	明星電気(株)			

第1版執筆作成協力者（昭和63年2月27日現在）

（JJ-20.30の制定）

第3部会	第2分科会	（敬称略）	
主査	柏村 卓男	日本電信電話(株)	
副主査	青木 賢三	富士通(株)	
	吉田慎一郎	日本電信電話(株)	久島 和則 沖電気工業(株)
	大木 幹雄	明星電気(株)	徳永 正人 日本電信電話(株)
	杉本 晴重	沖電気工業(株)	本田 進 明星電気(株)
	新屋 正次	日本電気(株)	加藤 義文 日本電気(株)
	小野 勲	日本ユニバック(株)	山浦 史雄 日本ユニバック(株)
	草場 彰	(株)日立製作所	小沢 幸夫 (株)日立製作所
	西原 勉	住友電気工業(株)	中村 信之 住友電気工業(株)
	竹原 啓五	日本通信協力(株)	進来 俊 富士通(株)
	穴沢 秀夫	東京電力(株)	戸所 孝昭 日本アイ・ビー・エム(株)
	上田 文彦	(株)トーメン	中野 栄 三菱電機(株)
	青木 直孝	日本アイ・ビー・エム(株)	前野 順一 (株)東芝
	川村 雅生	日本情報通信(株)	川村 雅生 日本情報通信(株)
	板倉 幸雄	藤倉電線(株)	中井 秀行 沖電気工業(株)
	岩橋 努	三菱電機(株)	
	関井 清	(株)東芝	
	中村 昂三	富士通(株)	
	西口 修	(株)リコー	
	小林 茂美	アンリツ(株)	